

陸放翁の家

佐々妻夫

白藤の花は終つて道はたにこぼれ  
垣垣には今鐵線蓮が這いまつはり  
紫ほのかにかきたこなたに咲きにほふ  
かりたぢうとけの隣間からは  
牡丹らしいのか白く透いて見えろ  
門はかたふき、壁はやぶれぶくれ

軒端の茅は替わしくかれ

柿は鳥の糞かたまかせとる瓦が

これは廢屋では無い。廢園では無い。

木更何さま村は変わった家か軒

屋を繕う事は花を以てして

梅つちの道に花の香は絶え無い。

まろごその葉にみろ陸放翁の家の

嫁らし、婦は時をま井戸はちで

菖蒲の茂つた葦の叶に見えけるか

主も娘もつひを見かたをぬは無い。

